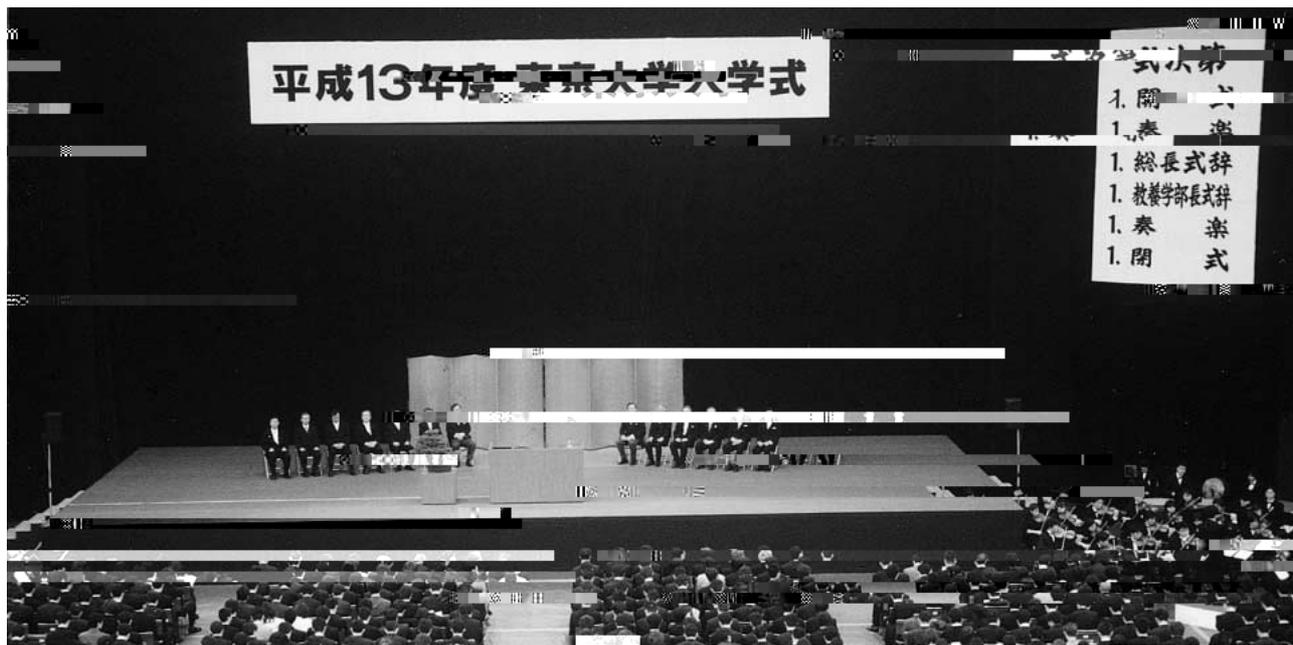


## 平成13年度東京大学入学式行われる (平成13年4月12日(木) 於 日本武道館)



入学式式典風景



式辞を述べる佐々木総長



式辞を述べる古田教養学部長

(2, 8 ページに関連記事)

### 目 次

特別記事 .....	2
入学式における総長式辞、入学式における 教養学部長式辞	
一般ニュース .....	8
総長の海外出張、入学式行われる、情報委 員会規則の一部改正、医学部附属病院規則 の一部改正、コンピュータ緊急対応チーム (UT CERT) 規則の制定、量子相エレクト ロニクス研究センターの門標上掲、教養	

学部で第91・92回オルガン演奏会の開催	
キャンパスニュース .....	11
平成12年度学部卒業者数、第74回五月祭の 期日決まる、東京大学ハラスメント相談所 を開設、本郷と駒場に相談室、東京大学医 学部附属病院分院閉院式典・祝賀会を挙 行、共済組合からのお知らせ	
討 報 (吉山良一名誉教授、大野盛雄名誉教 授) .....	14
淡青評論「評価雑感」 .....	15

## 入学式における総長式辞

本日ここに21世紀最初の入学式を迎えられた三千余名の皆さんに対し、東京大学を代表して心から歓迎の意を表する次第であります。

さて、皆さんはそれぞれに喜びや希望をもって今日を迎えたと思いますが、皆さんを取り巻く社会状況はこれこそ予断を許さないものがあります。この数年、今まで盤石の基盤を持っていたかのように思われてきた幾多の企業や組織が消滅し、歴史の猛烈な渦巻きにわれわれの生活が巻き込まれつつあることを皆さんも実感していると思います。この歴史の渦巻きは静まるどころか、これまでの仕組みの有効性は失われ、しかも、社会の精神的エネルギーや人材の力量や能力に対する深刻な疑念が高まり、「日本は危機にあり」という実感はますます深まっているように見受けられます。その結果として、政策の変更や仕組みの改革を越えたもっと根本的な変革、人間のあり方の変革が必要だと認識が深まっています。昨今の教育に対する関心の高まりの背景にはこうした危機感が確実に存在します。

従って、皆さんはこの数十年間なかったような古い秩序の終わりや歴史の「裂け目」を実感しつつ、入学式を迎えたということになります。こういう中でどのように人生の舵取りを進めていくかは、われわれ全てがそれぞれに考えなければならないテーマですが、特に、皆さんにとっては絶対に避けて通れないテーマであります。

これまで世間では東京大学に入学し、卒業することは将来の安定を保障するものだといったものの見方が流布してきたように思われます。しかし、歴史の「裂け目」が牙を剥き、組織を次々と呑み込むような状況の中では、東京大学を卒業しようと、もはや一生の安定が保証される時代でないことは明らかであります。従って、皆さんに求められるのは先のような世間の俗説に支配されることなく、原点に立ち返って徹底的に今後の人生について考えることを今日から早速始めることだと思います。そこで基本的に求められるのは安定のために安定を求める「安住の精神」ではなく、これからの新しい社会の形成に具体的な場で積極的に取り組む「挑戦の精神」であります。「安住の精神」は「日本の危機」を長引かせ、社会的な閉塞感を増大させ、新しい展望を切り開く上で大きな障害となりつつあります。これから人生を本格的に歩み始める皆さんにとっては「安住の精神」は何物も与えてくれませんから、「挑戦の精神」をエネルギーに自



東京大学総長 佐々木 毅

らの進路を切り拓いていく以外に選択肢は基本的にはないと思われま。東京大学は皆さんが自らの「挑戦の精神」を試し、鍛えるのに応答するだけの十分な人材と環境を備えていることは保証できます。皆さんに求めたいのは、そうした環境を使いこなす意志と気力です。

20世紀の日本は終わりました。それは暦の上で終わっただけではなく、その社会の実態においても終わりました。国家を中心に組織の網の目が張り巡らされ、そのどれかに属することによって安定を享受するという仕組みは今や切り裂かれ、財政の巨額の赤字が示しているように政府の将来に対してすら警戒信号が点滅している有様です。この10年近く日本は諸々の改革を実行してきましたが、その成果は極めて不徹底なものだといえませんでした。そして、21世紀の日本は仕組みの大改革と組み岱然 冑冑爵 丹其羌 兕犗犗 S 兕兕冬 益鉢 犗犗晋 わざるを得ません。しかし、努力と工夫によって犠牲を出来るだけ少なくすることは可能です。他方で、安定のために安定を求める態度は目先の犠牲に敏感であっても、実際には将来において巨大な犠牲を払わざるを得ないような墓穴を自ら掘っているとと言えるわけです。ここでわれわれは二つのことを確認しなければなりません。第一に、どのような社会秩序もその存続能力には限界があること、安定は安逸を生みだし、安逸は墮落と解体につながり、どこかで再び「挑戦の精神」による社会の建て直しが必要になるといった一種の社会的循環が厳然としてあるということです。これは古来の賢人たちがそれぞれに指摘してきたところです。第二に、社会がどのような運命を辿るかは、結局のところ、そこに生きる人間たちの精神の持ち方に帰着するということです。歴史には多くの偶然がつきまといますが、こうした基本を忘れることは許されません。

こうした中であって将来の世代の教育を引き受ける日本の教育機関、特に、大学の責務は実に重いものがあり

ます。大学はこれまでのように社会秩序の安定性や有効性に頼って自らを設計するわけには行きません。むしろ、その建て直しに必要な人材の供給が任務となります。こ

目標に向かって邁進することがますます必要になることでしょう。そこでは、実力と結びついたプライドが常にテストされます。実際には、高い目標を狙った矢がそれに届かなかったということは人生では珍しくありません。しかし、それは決して不名誉なことではありませんし、初めから目標を持たないことが賞賛に値するものでもありません。東京大学には大きな目標を持った人材が雲霞のように集まって来ていると思います。互いに切磋琢磨しながら、皆さんのそれぞれの目標を鍛え、それを通して自らを厳しく鍛えていただきたい。

但し、目標の設定に当たって念頭に置かれなければならないことは個人的な目標に満足することなく、広く社会や「公共の事柄」に思いを致すという「志の高さ」を忘れないことです。これは「魂の広さ」とでも言うべき問題です。個人的な目標は所詮は個人的なものでしかありません。そこには緊張感の乏しさと墮落の可能性がないとはいえません。また、個人的な目標しか眼中にない人々が寄り集まっていくら政治を批判しても政治がよくなるのは何も不思議なことではありませんし、「公共の事柄」を有効に運ぶためにはそれにふさわしい人材が必要なのです。そして、「挑戦の精神」と「志の高さ」を備えた人材が皆さんの中から出てくることを日本社会は期待しています。

ある時期の日本社会は大学を出た若者にその実力を問うことなく気前よく職場を与え、それなりに安定を保証してくれました。しかし、今や皆さん自身が自らを鍛え、相当の準備をすることによってのみ将来が拓けてくるという覚悟で学生時代を送らなければならなくなりました。これを「運が悪い」と考える人が皆さんの中にもいるかも知れません。しかし公平に見て、ある時期の日本の学生たちの呑気さぶりが異常であったのであり、諸外国の経験に鑑みればむしろ事態は正常化しつつあると言っても過言ではありません。そして、社会が呑気な学生時代を送った世代に対してよりも皆さんの世代に対して大きな期待を寄せていることも恐らく事実でしょうし、真摯な学生生活を送ることは大きな人間的資産を将来皆さんに残すことにつながると信じます。

最後にこれから皆さんが数年間を送ることになる東京大学について幾つかの事柄を述べておきたいと思います。東京大学は学部学生だけで15,000名、10,000名を越える大学院生、医学部附属病院や研究所を含めると7,000名を越える教職員を擁する非常に規模の大きい大学です。また例えば、自然科学の権威ある国際的雑誌に掲載された論文を執筆した研究者の所属大学を調べてみますと、東京大学の研究者の執筆した論文数は世界の大学の中でトップクラスに入ることが知られています。これは本学がいかに大きな学問・知的資源を蓄積しているかの一例です。しかし、い

居于精尔猜全さんが数年豆らよ変一  
健拓け定を保于侵 た若邪さんの昔国が滝期考ま辺気ため例  
バ恒蜻繁緩淫闘昧 跨襜開帽緋イ 召橋曹 車 鷗 區澤8 遵舌泰遵柳姿? 瓜 陈悦姿9 < 気前x 恢柴忘瞭J 藿 禾楚 天銃蓉U à U  
纒纒還纒ぬ漚纒廠送ぼ学法嘴幾獲国周礪な学儘騰権蠟筆減羸学讓設溪が壘 甘延執筆だ舜 卒軻が滝期諺鬼きな岳恢 減 吳斜缶腫 半 乖手

問われている点なのです。社会の関心が入学と卒業という区切りにばかり向き、その内部でどのような教育や研究が行なわれているかに無関心でいられる時代は終わったのです。これは大学に勤務する教職員の能力を厳しく問い直すことにつながることは言うまでもありません。そして例えば、教育面での改革は今や緊急の課題ですが、教育面での改革を実施していくためには皆さんの建設的な協力が是非とも必要です。教育面での皆さんからの改革提言を大いに歓迎しますので、私に直接具体的な提案を寄せてください。

さて、研究・教育の面で思い切った見直しを行ない、教職員の潜在的な能力を引き出していくために、東京大学は独立した法人格を持つことに躊躇すべきでないというのが私の見解です。先に述べたように大学はあくまで研究・教育の場であるという点を確認した上でどのような

## 入学式における教養学部長式辞



東京大学教養学部長 古田元夫

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。東京大学では、新入生全員が駒場にある教養学部で2年間勉強し、それから専門諸学部へ進学することになっています。私は、皆さんにとっての東京大学の入り口にあたる教養学部の教職員を代表して、心からの歓迎の意を表したいと思います。

さて、今日4月12日は東京大学の創立記念日です。東京大学は1877年の発足からすでに120年以上の歴史を

そのような知にとって不可欠の基本的な技法を習得することに、再定義しました。これに基づいて、現代の学生の知的関心に呼応した授業科目の開設、コンピューターリタラシーの必修科目としての導入、そして知識を学ぶのではなく、大学での学習の基本的な技法を身につけるための基礎演習の開設など、様々な試みが展開されるようになりました。

教養教育の重要性が強調されるようになった今日、私たちは一面で教養学部を充実したものに努力に一貫して取り組んできた東京大学の選択を誇りに思っています。しかし教養が強調されるということは、それだけ時代状況が厳しいということであり、いままで以上に教養学部自身にもその教育の質の向上に関する重大な責務が課せられており、不断の自己革新が求められています。と同時に今回入学を果たした新入生の皆さんにも、大学の不可欠の構成員としての努力が要求されます。

先ほども申しましたように、今日のような時代の教養の涵養にとっては、外国はもちろん、異なる世代や時代をふくめた自分とは異なる考え方、生き方、習慣などあらゆる「自分とは異なる者」という意味での異文化との接触・交流が重要な意味をもっています。

このような角度から見た時、東京大学教養学部というところは、様々な次元での「異質な他者」との出会いを可能にしてくれる場です。まず、教養学部は、文科系の教官もいれば理科系の教官もいる総合的性格をもった学部で、カリキュラムもきわめて多彩でありかつ選択の余地が大きいという特徴をもっています。さらに、学生の構成という点でも多様です。今年の新入生の出身高校の構成を見ても過半数は関東地方以外の高校の出身で、依然東京大学は日本全国各地から学生の集まる大学という性格を強くもっています。これに、東京大学の多様性を構成する重要な担い手としての、いわゆる帰国子女や外国人留学生として入学を果たした方々が加わっています。このような場で、自らの狭い殻に閉じこもることなく、大いに「異質な他者」との出会いに、勉強という面でも、教官や友人との交流という面でも挑戦してほしいと思います。

大学という「知の共同体」において出会う「他者」は、知という同じ目的をもつ、いわば同じゲームを行っている他者です。ここでは、自ずとある種のゲームのルール、つまりはモラルが求められます。そこでは、自分の意見・主張を明確にすることが求められますが、この自己主張とは「私はこう感じる」とか「こう思う」という類のものではなく、あくまでも論理的で客観的な裏付けがあることを要求されます。主観的で感情的な判断ではなく、相手に反論の余地を与えること、もっといえば他者の反論によって自らの議論が乗り越えられることを常に期待することが求められるのです。

このような「知の共同体」としての大学に求められるモラルは、いわゆる自分が気に食わない時に「切れてしまふ」ということと全く逆のものです。私は、最近の若者は「切れやすい」という評価に安易に同調するつもり

はありませんが、「切れる」ということは「異質な他者」との交わりにとっては基本的な障害であり、「知の共同体」としての大学の存立を危うくするものです。簡単に「切れる」ことなく、「異質な他者」に学び自らを大きくしていくことは、これからの時代に生きぬくための重要な資質であり、東京大学教抑な§ 魂録 | 鄭婉 居野 女闘

## 総長の海外出張

佐々木総長は、平成13年4月22日（日）から4月25日（水）までの間、アメリカ大学連合（AAU）国際会議出席のため、アメリカ合衆国へ、また、平成13年5月1日（火）から5月4日（金）までの間、日仏高等教育シンポジウム出席のため、フランスへそれぞれ出張する。

## 入学式行われる

3,318人の新入生が誕生

平成13年度の入学式が4月12日（木）、日本武道館で行われた。式には約3,230人の新入生と、その父母など約4,930人、合わせて約8,160人が出席した。

午前10時18分、本学音楽部管弦楽団による、ワーグナー作曲の「ニュールンベルグのマイスタージンガー前奏曲」が演奏され、佐々木総長はじめ各学部長、附属図書館長、事務局長が登壇し10時31分開式となった。

式はまず、音楽部管弦楽団、音楽部コーラアカデミーによる学生歌「足音を高めよ」の演奏があったのち、佐々木総長が26分にわたって式辞を述べた。続いて古田教養学部長の式辞があり、最後に応援歌「ただ一つ」の演奏をもって、11時20分式を終えた。

4月17日（火）開催の評議会において、次のとおり規則の制定及び一部改正が承認された。

## 情報委員会規則の一部改正

東京大学情報委員会規則の一部を改正する規則

情報ネットワークシステム専門委員会のあり方について審議した結果、情報ネットワークシステム専門委員会を廃止し、情報基盤専門委員会へ整理・統合することとしたこと、並びに本学の組織の整備に伴い本委員会委員の充実のため、所要の改正を行ったものである。

### 附 則

- 1 この規則は、平成13年4月17日から施行し、改正後の東京大学情報委員会規則の規定は、平成13年4月1日から適用する。
- 2 東京大学情報ネットワークシステム専門委員会規則（平成11年12月1日制定）は、廃止する。

### 了 解 事 項

（平成13年4月1日）

第1項第1号中「新領域創成科学研究科長」の次に「、大学院情報学環長、大学院情報理工学系研究科長」を加える。

## 医学部附属病院規則の一部改正

東京大学医学部附属病院規則の一部を改正する規則

国立大学の附属病院等の中央診療施設等に関する訓令（昭和42年文部省訓令第24号）の一部改正により、新たに臨床試験部が設置されたこと及び中央診療施設の名称が変更されたことに伴い、所要の改正を行ったものである。

### 附 則

この規則は、平成13年4月17日から施行し、改正後の東京大学医学部附属病院規則の規定は、平成13年4月1日から適用する。

## コンピュータ緊急対応チーム（UT CERT）規則の制定

本学の情報ネットワークの運用及び管理に関する情報セキュリティ確保の全学協力体制整備のため、部局を超えた情報セキュリティ問題に対処する組織として、本学に東京大学コンピュータ緊急対応チーム（University of Tokyo Computer Emergency Response Team）を情報基盤専門委員会のもとに設置することに伴い、本規則を制定したものである。

東京大学コンピュータ緊急対応チーム（UT CERT）規則（設置）

第1条 東京大学（以下「本学」という。）における情報セキュリティ確保の全学協力体制整備のため、部局を超えた情報セキュリティ問題を担当する組織として、東京大学コンピュータ緊急対応チーム（University of Tokyo Computer Emergency Response Team以下「UT CERT」という。）を情報基盤専門委員会（以下「専門委員会」という。）のもとに設置する。（業務）

第2条 UT CERT

きには、部局CERTの実施する原因究明及び再発防止対策に協力するとともに、事実経過を遅滞なく専門委員会に報告しなければならない。

(組織)

第3条 UT CERTは、総括責任者及び委員若干名をもって組織する。

2 委員は、情報セキュリティに関する専門的知識を有する本学の教職員のうちから専門委員会委員長が指名する。

3 総括責任者は、委員のうちから専門委員会委員長が指名する。

(総括責任者)

第4条 総括責任者は、UT CERTの業務の実施を総括する。

2 総括責任者に事故があるときは、あらかじめ総括責任者の指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

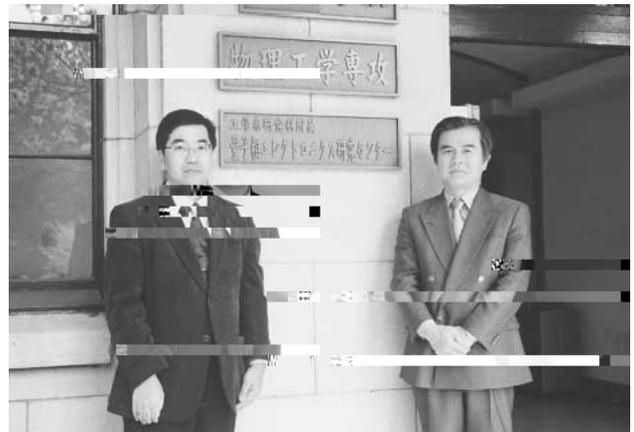
第5条 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が任期途中で交代したときは、新委員の任期は前任者の残任期間とする。

(守秘義務)

第6条 委員で見脱 段 是 岨 手 商 委 東 重 門 蘊

第 UT 3 条



## 教養学部で第91・92回オルガン演奏会の開催

### 第91回オルガン演奏会

教養学部では、《バッハとその源流》をテーマに恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、オルガンのベルンハルト・レーマーさんをドイツからお迎えし、ブルーンズ、ブクステフーデ、バッハの曲をお楽しみいただきます。

入場は無料です。また、ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧下さい。

<http://www.platon.c.u.tokyo.ac.jp>

日時 5月18日(金)午後6時30分開演

場所 教養学部900番教室

曲目 N・ブルーンズ

前奏曲 ホ短調

D・ブクステフーデ

「来たれ聖霊、主なる神」(BuxWV .199)

トッカータ ヘ長調 (BuxWV .156)

J・S・バッハ

「おお人よ、汝の罪の大いなるを嘆け」

(BWV .622)

トッカータ・アダージョとフーガ 八長調

(BWV .564)

「わが魂よ、装いせよ」(BWV .654)

パッサカリア 八短調 (BWV .582)

演奏 ベルンハルト・レーマー (オルガン)

J・S・バッハ

「18のコラール集」より

「いと高きにある神にのみ栄光あれ」

(BWV .662)

「いと高きにある神にのみ栄光あれ」

(BWV .663)

F・メンデルスゾーン

「6つのオルガンソナタ」より5番 二長調

(op .65, no .5)

C・サン＝サーンス

歌劇「サムソンとデリラ」(op .47)より

「バックナール」

演奏 ジャネット・フィッセル (オルガン)

コリン・アンドリュウズ (オルガン)

(大学院総合文化研究科・教養学部)

### 第92回オルガン演奏会

教養学部では、《ジャネット&コリン オルガン・デュオ》をテーマに恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、ジャネット・フィッセルさん(イギリス)とコリン・アンドリュウズさん(アメリカ)ご夫婦をお迎えし、ソロとめずらしいデュエットによるオルガン演奏の数々をお楽しみいただきます。

入場は無料です。また、ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧下さい。

<http://www.platon.c.u.tokyo.ac.jp>

日時 5月25日(金)午後6時30分開演

場所 教養学部900番教室

曲目 M・イッポリトフ＝イワーノフ

組曲「コーカサスの風景」(op .10)より

「酋長の行進」

P・バターソン

トッカータ「フロレッセンス」

G・ベーム

コラール・パルティータ「ああいかに空しく、

いかにはかなきことよ」

J・ボネ

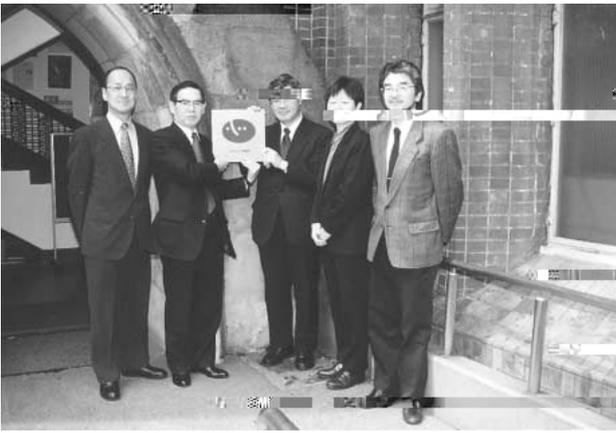
協奏変奏曲

R・グリエール

バレエ組曲「赤いけしの花」(op .70)より

「ロシア水夫の踊り」





看板を掲げる左から内田ハラスメント防止委員。青山元委員長、碓井相談所長、大澤、市川委員（本郷キャンパス相談所）



左から内田、瀧田、大澤ハラスメント防止委員  
碓井ハラスメント相談所長（駒場キャンパス相談所）

度やハラスメント防止委員会による正式の救済措置も用意されています。ハラスメント相談所がその申し立てを取り次ぎますので、詳細は相談員にご相談下さい。

## 東京大学医学部附属病院分院閉院式典・祝賀会を挙行

東京大学医学部附属病院分院は、明治30年（1897年）に内務省医術開業試験場（通称、永楽病院）として設立され、その後幾多の変遷を経て大正6年（1917年）8月に東京帝国大学に移管された後、現在に至るまでの間、医学部学生の教育、医師の卒後教育・臨床研究及び地域医療センターとしての使命をもって、あらゆる分野の研鑽の場として発展し、平成13年（2001年）4月に医学部附属病院との組織統合により104年にわたる歴史を閉じることとなった。これを記念し、3月22日（木）に山上会館で閉院式典並びに御殿下記念館ジムナジウムで閉院祝賀会を挙行した。

閉院式典には、学内外関係者約60名が出席。はじめに藤田敏郎医学部附属病院分院長から式辞が述べられた後、村田貴司文部科学省高等教育局医学教育課長から祝辞が述べられた。

続いて蓮實重彦総長から挨拶が述べられた。また、桐野高明大学院医学系研究科長・医学部長、武谷雄二医学部附属病院長からそれぞれ挨拶が述べられた後、煙山力文京区長から来賓祝辞があった。

また、式典終了後に行われた閉院祝賀会では、学内外関係者約270名が出席。はじめに藤田敏郎医学部附属病院分院長から挨拶が述べられた後、尾形悦郎元医学部附属病院分院長、大原毅元医学部附属病院分院長、森山弘子前医学部附属病院看護部長からそれぞれ祝辞が述べられ、小林太刀夫元医学部附属病院分院長の発声により祝杯を挙げた。また、祝宴の中では小松公助元医学部附属病院分院事務長、影山初子前医学部附属病院分院看護部長から分院の思い出が述べられた。上西紀夫医学部附属病院分院副院長から閉会の辞が述べられ、盛会裡の内に終了した。



式辞を述べる藤田医学部附属病院分院長  
（大学院医学系研究科・医学部）

## 共済組合からのお知らせ

## ☎ 広報委員会 ≧

東京大学に來られた教職員の皆様へ

既に、ご承知のことと思いますが、皆様は採用等により文部科学省共済組合東京大学支部の組合員になりましたので、「組合員資格取得届」を各部局の共済担当掛へ提出することとなっております。また、扶養者がおられる方は「被扶養者申請書」も同様に共済担当掛へ提出することとなっております。

まだ、「組合員資格取得届」等を提出されていない方は、早急に手続きくださるようお願いいたします。

なお、「被扶養者申請書」の手続きが遅れた場合、被扶養者の認定日が事実発生日以降となり、皆様の不利益となる場合がありますので、注意してください。

被扶養者の家族が就職された皆様へ

子供が就職した場合や配偶者が年額130万円以上（月額108,333円）の収入がある場合は、被扶養者の取消し手続きが必要となります。

なおこの手続きが遅れた場合、医療費の返還など皆様の不利益となる場合がありますので、注意してください。

上記手続等について、ご不明な点がございましたら、各部局共済担当掛又は経理部経理課共済第二掛（内線22174～22176）にお問い合わせください。

〔訂正〕

〔学内広報〕No.1212（2001.4.11）の特別記事「卒業式における総長告辞」、「卒業式における卒業生代表挨拶（卒業生代表理学部杉山昌広）」、及び一般ニュース「卒業式行われる」の中で、卒業生数が3,430人とされておりますが、その後の調べで卒業生の数は3,428人であることが判明致しましたので、訂正致します。

## 吉山 良一 名誉教授

本学名誉教授吉山良一先生は、3月18日（日）御病気のためご逝去されました。享年91歳でした。

先生は明治42年鹿児島県でお生まれになり、昭和8年東京帝国大学理学部地震学科をご卒業になりました。その後、大学院に1年間在学された後、昭和9年3月に東京帝国大学理学部助手（地震学科）の嘱託、昭和12年に同助手に任官されました。昭和16年には、九州帝国大学物理学助教授として迎えられ、さらに昭和20年7月には京城帝国大学教授に任ぜられました。しかし、任地の京城に赴くことなく終戦となり、昭和21年12月には九州帝国大学に助教授として復職されました。昭和30年5月に東京大学地震研究所教授に昇任、昭和45年3月の停年退官まで理論地震学の研究と後進の教育に尽力されました。その後、昭和50年まで鹿児島大学教授として教育研究に従事されました。

先生のご研究の特徴は、その緻密さ、つまり、理論的に考え得るすべての条件を詳細に吟味することにあります。



す。特に、初期の不均質な弾性球内を伝播する弾性波の研究は世界に先駆けて行われたものであり、振幅分布は震波線に沿って保存されるなどの地震波動論上の重要な事実を指摘されました。また、走時曲線の有すべき性質、地球内部のポアソン比の分布、潮位の解析など多方面にわたって問題点を理論的に提起されるとともにその解決指針を示されました。地震エネルギーを考える際の留意点を指摘したご研究は、その発表後30年以上経過していますが、未だに重要な意味を持っています。

先生のご研究は、このようにきわめて厳密でありましたが、後進の教育・指導もたいへん厳格でありました。このような指導を直接・間接に受けて育った理論地震学の研究者は、決して少なくありません。

先生は、日本学術会議地球物理学研究連絡委員会委員、学術奨励審議会専門委員などを歴任され学識経験者としても大きな貢献をされました。

ここに、先生の卓越したご功績とご人徳を偲び、謹んでご冥福をお祈りします。

（地震研究所）

## 大野 盛雄 名誉教授

本学名誉教授・元東洋文化研究所長大野盛雄先生は、去る4月4日逝去されました。享年76歳でした。先生は、昭和25年東京帝国大学理学部、同28年東京大学経済学部を卒業後、東京大学東洋文化研究所助手、明治大学講師などを経て、昭和39年東京大学東洋文化研究所講師、助教授、ついで昭和43年教授に昇任されました。以来、人文地理学の方法を踏まえつつ、イラン・アフガニスタンを中心に西アジア農村の研究と教育に専念されました。昭和51年から53年、及び57年から59年には東洋文化研究所長、同附属東洋学文献センター長として



本所の発展に尽力されました。

先生は、イランを中心に西アジア農村社会のフィールドワークに基づく研究を進められ『ペルシアの農村』を刊行され、我が国の西アジア農村研究を国際水準に高められるとともに、ユニークな比較文化論をも構築されました。

退官後も大東文化大学国際関係学部長として同学部の創設発展に尽されました。日々の革新をモットーに常に若々しく活躍された先生の面影は、知友学生の心の中に永久に残ることでしょう。

謹んで冥福をお祈り申し上げます。

（東洋文化研究所）

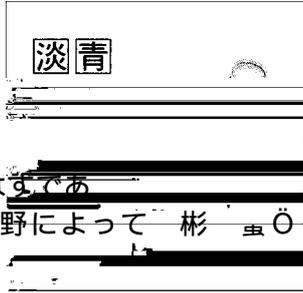
評価雑感

もう何年も前であるが、「学術

審議会の末席に連なったことがある。大学等における研究活動を評価する際の方法論・こぜ輩

それは何らかの意志決定のためであるはずであ

る。その審議会で指導順序の載り分野によって一杉 圭 〇



s 例 鞆 ゲ 獬 錦 信

撞 船 例 S 見 犇 益 涌 だ

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[次号の原稿締切]

5月2日(水)午後5時

東京大学総務課広報室 ● (3811) 3393  
e mail kouhou@adm.u.tokyo.ac.jp  
ホームページ [http://www.u.tokyo.ac.jp/index\\_j.html](http://www.u.tokyo.ac.jp/index_j.html)